

道德指導法

(補講)

<https://ouaharoprof.xsrv.jp/info5>



形態を四人のグループにし、生徒自身の言葉で考え、話し合わせる。



本当の幸せって何だろう？

幸せって何だろう。
「何不自由なく生活できる人は幸せ」と言う人がある。
「昔の方が心が豊かで幸せだった」と言う人もいる。
「今の社会は、豊かな生活に慣れすぎて、大切なものを見失っている」と言う人も。
「そんなのぜい^{たく}な^{なや}悩みだ」と言う人も。
今の私たちは幸せなのだろうか。
幸せの条件ってあるのだろうか。

本当の幸せって何だろう？

覚えていますか??

中学校 第三学年

【主題】

本当の幸せを考える

【向上心、個性の伸長】

【ねらい】

人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを理解し、生きることの喜びを見いだそうとする意欲と態度を育てる。

【教材】

「本当の幸せって何だろう？」

（「私たちの道徳253ページ」文部科学省）

道徳科学習指導案

平成〇年〇月〇日 第〇校時

〇学年〇学級 生徒(児童)数(人)

指導者 〇〇 〇〇

1 主題名 □□□□□□ (内容項目 A-1 自主・自立 自由と責任)

2 ねらいを通して,しようとする
(道徳的判断力 or 道徳的心情 or 道徳的实践意欲と態度)を養う。

3 教材名 『〇〇〇〇』(出典)

4 主題設定の理由

○ねらいとする価値について

※「中学校学習指導要領解説 道徳編」に価値項目ごとに説明が記載(左頁)されているので、それを参考にしながら、教師としてその価値をどう捉えているのかを書く。

○生徒の実態について

※ねらいに照らし合わせた生徒の実態、今までの学級活動での指導との関連等、ここでは自分がこれまで関わったクラス等を想定して書く。上記同様、「中学校学習指導要領解説 道徳編」に価値項目ごとに説明を参考(右頁)に、以下のような言葉を使って書いてみてください。

「本学級の生徒は. . .」(道徳性におけるよさ)、「しかし. . .」(道徳性における課題)。
「これは. . .」(児童・生徒の実態の分析と考察)。「そこで、本教材を通して、. . .について考える機会としたい。」(本授業でねらうこと)

○教材について

※上記同様、以下のような言葉を使って、教材のあらすじの概要及び、その教材のよさについて、書いてみてください。

「本教材は. . .」(教材の概要)
「本主題の指導にあたっては. . .」(ねらいに関わる中心的な活動)

5 本時のねらい

※ここは、本授業での「小さなねらい」。教材の中のことば等を用いながら、具体的にこの教材のどこをきっかけに、何を生徒に考えてもらいたいのかを短く端的に明記する。

6 本時の展開

	学習活動・発問と予想される生徒の反応	指導上の留意事項
導入	◎ <u>道徳的価値の自覚に向けて、動機付け(方向付け)を図る段階</u> の活動内容・発問を書く (ねらいとする価値にかかわるアンケート結果、日常での課題)	<u>価値に対する直感</u>
展開	<u>中心発問・補助発問</u> ※ <u>発問、および発問に対して想定される生徒(児童)の反応を書く</u> ※ <u>ネットにいくつか、指導案</u> が掲載されています。丸写しにならないよう参考にして、自分なりに考えた発問(子どもへの質問)と、それに対する子どもの反応を書いてください。 ※中心発問(教師が本教材で中心となる一番考えてほしいこと) 中心発問の前に生徒が考えやすいよう、その前提となる準備の発問(補助発問)をする。 <u>中心となる場面について考える</u> ※全体よりもグループでの交流が中心	※意見をまとめるのではなく、多様な意見を出すことが大切。結論として、同種の意見であっても、その理由には違いがあるので、自分の思いを自分の言葉で語らせたい。 ※座席の工夫、小グループによる話し合い活動(ペア、グループでの交流)によって、多様な思いや考えを交流する。→全体では発表に抵抗がある生徒でも、少人数なら語りやすい。
終末	◎授業を通して自分が考えたこと、友達の意見を聞いて感じたこと・考えたことについて「書く」活動を取り入れたり、実践への意欲付けをしたりする。 ・この授業を介して気づいたことや考えたことを書かせ、それを交流し合うことによって、多様な考えを知る。 ・主人公に手紙を書く、保護者や地域の方からの手紙を読む、授業中の生徒の発言や好ましい態度等、授業を通して気づいたことを授業者から話す。しかし、教師がねらいとする価値にむけてまとめることはしない。すなわち、価値の押し付けになることは避ける。 <u>内省する</u>	※これからの自分の生き方や生活にかかわって、課題意識や自分への問いかけを持てるようにする。 ※価値の押し付けにならないようにし、余韻を残して終わることが大切です。

7 評価の観点

(例)

- ・道徳的価値について、自分自身とのかかわりで考えようとしている。
- ・自分とは異なった他者の考えをよく聴き、受けとめようとしている。

内容項目

小学校第5学年及び第6学年（22）	中学校（22）	
A 主として自分自身に関すること		
（1）自由を大切にし、自律的に判断し、責任のある行動をすること。	（1）自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。	自主、自律、自由と責任
（2）誠実に、明るい心で生活すること。		
（3）安全に気を付けることや、生活習慣の大切さについて理解し、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛けること。	（2）望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け、安全で調和のある生活をする。	節度、節制
（4）自分の特徴を知って、短所を改め長所を伸ばすこと。	（3）自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求すること。	向上心、個性の伸長
（5）より高い目標を立て、希望と勇気をもち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと。	（4）より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気をもち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げる。	希望と勇気、克己と強い意志
（6）真理を大切にし、物事を探究しようとする心をもつこと。	（5）真実を大切にし、真理を探究して新しいものを生み出そうと努める。	真理の探究、創造
B 主として人との関わりに関すること		
（7）誰に対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立って親切にすること。	（6）思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深める。	思いやり、感謝
（8）日々の生活が家族や過去からの多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応える。		
（9）時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接すること。	（7）礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとる。	礼儀
（10）友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていく。	（8）友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていく。	友情、信頼
（9）自分の考えや意見を相手に伝えるとき、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。	（9）自分の考えや意見を相手に伝えるとき、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていく。	相互理解、寛容
主として集団や社会との関わりに関すること		
（9）法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切に、義務を果たす。	（10）法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切に、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努める。	遵法精神、公德心
（9）誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努める。	（11）正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努める。	公正、公平、社会正義
（9）働くことや社会に奉仕することの充実感を味わうとともに、その意義を理解し、公共のために役に立つことをすること。	（12）社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め、公共の精神をもってよりよい社会の実現に努める。	社会参画、公共の精神
	（13）勤労の尊さや意義を理解し、将来の生き方について考えを深め、勤労を通じて社会に貢献すること。	勤労
（15）父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことをすること。	（14）父母、祖父母を敬愛し、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築く。	家族愛、家庭生活の充実
（16）先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合ってよりよい学級や学校をつくるとともに、様々な集団の中での自分の役割を自覚して集団生活の充実に努める。	（15）教師や学校の人々を敬愛し、学級や学校の一員としての自覚をもち、協力し合ってよりよい校風をつくるとともに、様々な集団の意義や集団の中での自分の役割と責任を自覚して集団生活の充実に努める。	よりよい学校生活、集団生活の充実
	（16）郷土の伝統と文化を大切に、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努める。	郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度
（17）我が国や郷土の伝統と文化を大切に、先人の努力を知り、国や郷土を愛する心をもつ。	（17）優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献するとともに、日本人としての自覚をもって国を愛し、国家及び社会の形成者として、その発展に努める。	我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度
（18）他国の人々や文化について理解し、日本人としての自覚をもって国際親善に努める。	（18）世界の中の日本人としての自覚をもち、他国を尊重し、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に寄与する。	国際理解、国際貢献
D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること		
（19）生命が多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること。	（19）生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。	生命の尊さ
（20）自然の偉大さを知り、自然環境を大切にすること。	（20）自然の崇高さを知り、自然環境を大切にすることの意義を理解し、進んで自然の愛護に努める。	自然愛護
（21）美しいものや気高いものに感動する心や人間の力を超えたものに対する畏敬の念をもつ。	（21）美しいものや気高いものに感動する心をもち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深める。	感動、畏敬の念
（22）よりよく生きようとする人間の強さや気高さを理解し、人間として生きる喜びを感じる。	（22）人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることに喜びを見いだす。	よりよく生きる喜び

中学校学習指導要領（平成29年告示）解説
特別の教科 道徳編

第3章
道徳科の内容

（左）内容項目概要

（右）指導の要点

3 向上心、個性の伸長

自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求すること。

（小学校）〔個性の伸長〕

〔第1学年及び第2学年〕 自分の特徴に気付くこと。

〔第3学年及び第4学年〕 自分の特徴に気付き、長所を伸ばすこと。

〔第5学年及び第6学年〕 自分の特徴を知って、短所を改め長所を伸ばすこと。

（1）内容項目の概要

「自己を見つめ」とは、様々な行為をする主体である自己について深く省みることであり、その過程において一貫した自分の姿や将来像を思い描くことにつながる。「汝自身を知れ」「吾日に三たび省みる」という言葉があるように、これまでや現在の自分、そして将来こう在りたいという自分を静かに見つめ直すことは、自己の向上を願って生きていく上で重要なことである。自己を見つめる中で、向上心が起こるのである。このとき思い描く自己像は、自他の行為における関係の中で意識されるものである。基本的には他者と異なるという意味での自己像であり、これから努力して徐々に創り上げていくものである。自己という概念は、他者との関係において、初めて規定されるとも言える。

一人一人の人間は姿や形が違いうように、人それぞれには必ずその人固有のよさがある。「個性」とは、他者と取り換えることのできない一人一人の人間がもつ独自性であり、それは、その人の一部分ではなく、人格の総体である。個性は、能力・適性、興味・関心、性格といった様々な特性において捉えられる。個性は、その人固有の持ち味とも呼べるものであり、「個性を伸ばす」とは、固有の持ち味をよりよい方向へ伸ばし、より輝かせることである。自分自身で嫌だと思っている所も、見方を変えて磨きをかけることで、輝く個性になり得るのである。個性を生かし伸ばしていくことは、人間の生涯をかけての課題でもある。「充実した生き方」とは、他者との関わりの中で自分らしさを発揮している生き方であり、自分自身が納得できる深い喜びを伴った意味ある人生を生きることである。自分の人生への前向きな取組を繰り返す中で、おのずと体得されるものである。

「1 主題名」の書き方 ← キャッチフレーズ

【内容項目A-3向上心・個性の伸長】

「2 ねらい」の書き方

→・・・しようとする()を養う。

自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求すること。

P.17～18

○「特別の教科 道徳」(道徳科)の目標

「よりよく生きるための基盤となる**道徳性**を養う・・・

・道徳的判断力

それぞれの場面で善悪を**判断する**能力

・道徳的心情

道徳的価値の大切さを**感じ取り**、
善を行うことを喜び、悪を憎む感情

・道徳的実践的意欲と態度

道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし、**道徳的価値を
実現しようとする**意志の働きと道徳的行為への身構え

道徳性の様相
(すがた・ありさま)

留 意 事 項

①指導案作成は、まずは真似てもよい。

- ・ よりよいものを求め、自分なりに変更。
- ・ 参考にできるサイト等(どこを見れば参考になるものがあるか)

②何より教材研究に時間をかける(教材の分析)。

- ・ まず、自分なりに読み込む(書き込む)。⇔たくさんの気づきをもつ。
- ・ つぎに、教材をとおして、生徒がどんなことに気づき、
どんなことを考えるのかを多様に想定する。
- ・ 中心になる場面はどこか。→考えてほしい道徳的価値は何か。
- ・ 中心になる場面での発問。→「中学校道徳教科書」「文部科学省」

道徳科の授業に関する指導案・資料

文部科学省 道徳教育アーカイブス

○授業実践指導案 ○教材・資料

<https://doutoku.mext.go.jp/html/about.html>

中学校道徳教科書

<http://www.textbook.or.jp/textbook/publishing/junior-doutoku.html>

東京書籍

<https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/chu/list/keikaku.html>

指導計画作成資料(ねらい・学習活動・主な発問・評価の視点)

教育出版

<https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/r3chuu/dotoku/download/index.html#05>

指導計画作成資料

光村図書

<https://www.mitsumura-tosho.co.jp/kyokasho/c-dotoku/keikaku>

指導計画・評価計画資料

学研教育みらい

<https://gakkokyoiku.gakken.co.jp/2021text/doutoku/>

資料ダウンロード
年間指導計画例

あかつき

<https://www.aktk.co.jp/r3-doutoku>

指導計画作成資料
年間指導計画案

日本教科書

<https://www.nihon-kyokasho.co.jp/guidance/>

学習活動の重点化等に資する年間指導計画参考資料

日本文教出版

<https://www.nichibun-g.co.jp/textbooks/c-doutoku/>

年間指導計画案

大阪府だけでも
41教科書採択地区

留 意 事 項

①指導案作成は、まずは真似てもよい。

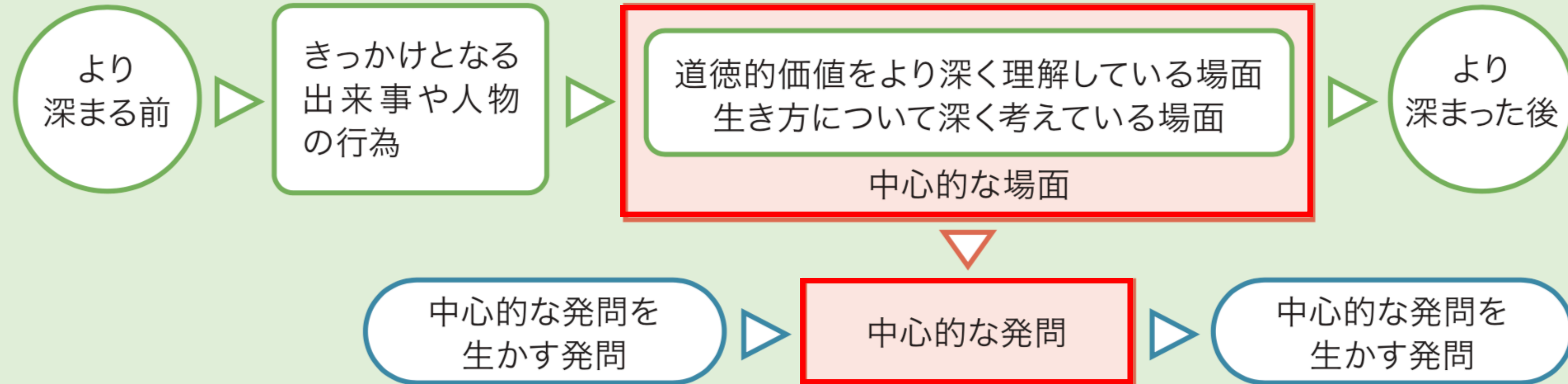
- ・ よりよいものを求め、自分なりに変更。
- ・ 参考にできるサイト等(どこを見れば参考になるものがあるか)

②何より教材研究に時間をかける(教材の分析)。

- ・ まず、自分なりに読み込む(書き込む)。⇔たくさんの気づきをもつ。
- ・ つぎに、教材をとおして、生徒がどんなことに気づき、
どんなことを考えるのかを多様に想定する。
- ・ 中心になる場面はどこか。→考えてほしい道徳的価値は何か。
- ・ 中心になる場面での発問。→「中学校道徳教科書」「文部科学省」

教材を吟味する

【読み物教材の分析】 ～登場人物の道徳的価値の理解の深まりを見てみると～



【発問づくり】 ～発問の具体例は～

- 「自分だったらどう考えるだろう」
- 「自分だったらどうしただろう」
- 「なぜ～したのだろう」
- 「こんなとき、どうすればよいのだろう」
- 「～はどんな気持ちだろう」

- 「なぜ～は大切なのだろう」
- 「～のことをどう思う」
- 「どうして～できたのだろう」
- 「何が問題になっているのだろう」

など

③授業の展開(アクティブラーニング)

課題に気づく

◎教材を読んだ後の生徒の初発の感想

→「気づいたことわからなかったことある？」

・グループで交流、全体で交流

→「〇〇さんが言ったことについてあなたは思う？」

・課題を見つける

→課題となる中心場面にふれる生徒の気づき、思い

自分

主体的・対話的で
深い学び!!

考えを広げる

◎課題についてグループで検討する。

→考えを広げる。

・全体で聴き合いながら、またグループに戻して考えを深める。

→「あなたならどうする?それはなぜ?」自分ごととして捉える。

・価値の押し付けは避ける。一つの考えにまとめる必要はない。

他者

考えを深める

◎自ら考えたことのまとめとして、授業を通して考えたこと等を「書く」を取り入れる。

・感想を(無記名)交流する。(教師が読み上げる、

タブレットに入力し交流、転記して後日プリント配布)

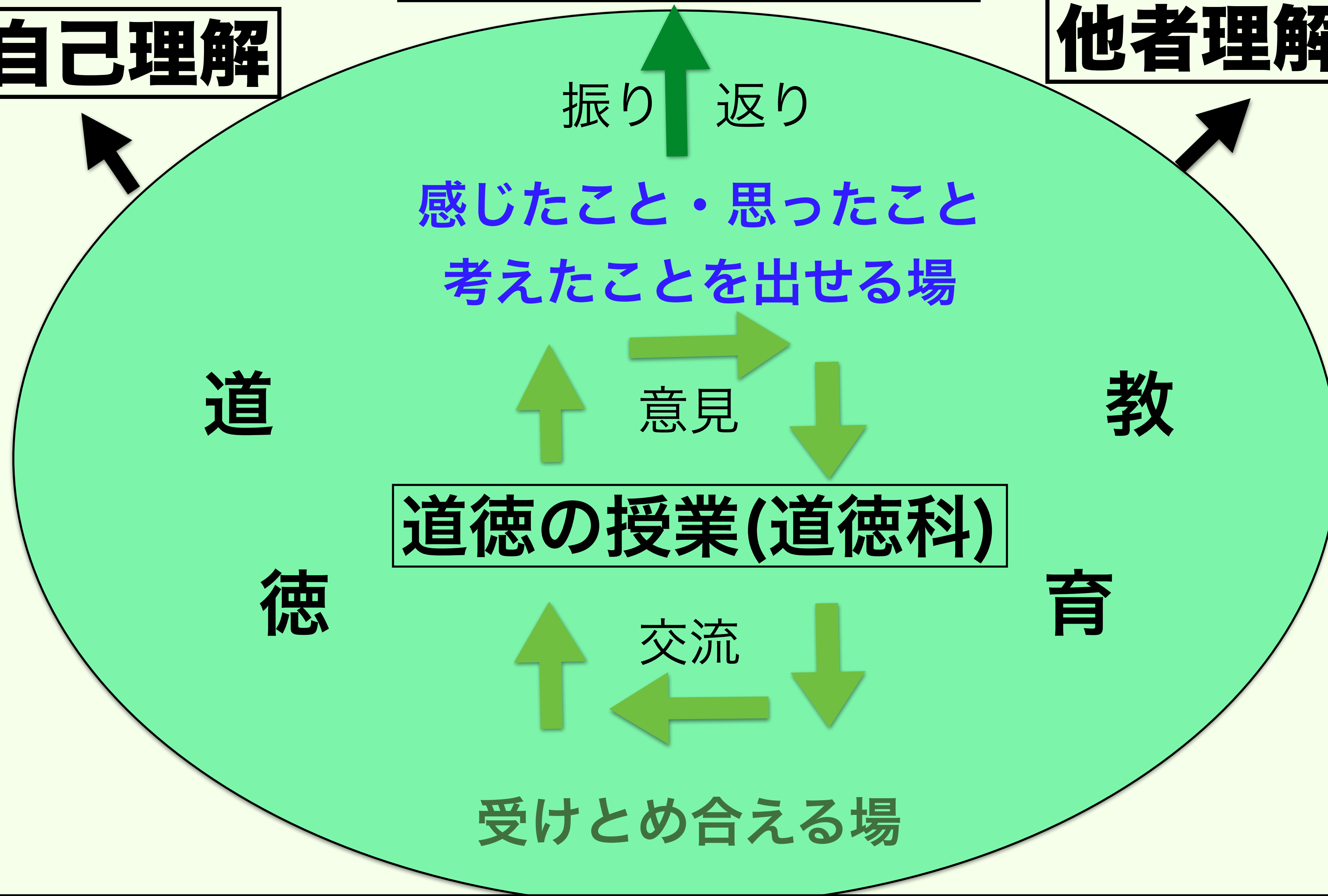
自分

道徳的価値、価値理解を
教えるようとはしない。

自己理解

道徳の授業の役割

他者理解



「自分のものの見方・感じ方・考え方」を広げ、深める場の提供



道徳教育の「要(かなめ)」

道徳科

「特別の教科 道徳」

「補充」「深化」「統合」



- ・何が問題か、
何を考えてほしいのか
を見つける。

- ・他者と関わる中で
思い・考えを交流する。
それぞれの意見の中にある
判断基準を問い返す。

道徳的な視点からの見つめ直す。

道徳科の授業

「道德教育」と「特別の教科 道德(道德科)」との関係

8頁

